

## 協議会への期待

新宿シャローム教会牧師

## 稲福エルマ



## 過去からの手紙

私がハワイの高等学校を卒業したのは四十六年前のことです。そんな風には見えないと思いますが(笑)しかし本当なのです。それはともかく、最近不思議なことが起こり始めました。四十六年間何の音沙汰もなかったのに、突然、この間会ったことのない同級生達からたくさんEメールを受け取るようになりました。

彼等のうちで、息子夫婦がカリフォルニアのサンディエゴの大きな教会で献身して働いていると書いてきた人がいました。その記事に興味を持ったので、すぐさま彼に彼らなどの教会に属しているのかと尋ねました。二三日後彼から手紙がきたのですが、彼等は私が今まで聞いたことのないロックチャーチという教会で働いていると教えてくれました。その牧師は元プロのフットボール選手でマイルス・マクファーン師だということでした。私の友人は手紙の中でさらに驚くべき事を書いてよこしました。その教会は二〇〇〇年に始まり八年後の現在では一万五千

人の礼拝出席者を擁しているというのです。

## 何が起きているのだろうか？

一つの教会が何もないところから興され、何と八年間で凄く影響力のある一万五千人もの教会へと爆発的に成長したの言うのです。何がおこったのでしょうか？ どのようにして？ 私がその答えを求めて、ウエブサイトを覗いていく内に次第に解り始めました。彼等の教会は活き活きとして明るく、弟子訓練に徹していて、しかも救霊のヴィジョンに燃えています。彼等は、すべてのクリスチャンがイエス様とひとつと親しくなり、教会を建て上げ、それからミニストリーをすべきだと強調します。このようなヴィジョンを持つ教会が爆発的に成長しているのは当然のことでしょう。

私は以前このような力強く成長している教会についての話を聞いたことがあります。それはハワイのニューホープクリスチャンフェローシップというウエイン・コディーロ師によって十二年間で一万二千人も

の教会に急成長したという話でした。何故でしょう？ 彼等が DOING Church As a Team (一つのチームとして教会形成をする) というヴィジョンのために愛を持って一致団結に力を注いだからだというのがその答えとなるでしょう。彼等はすべての信徒達は伝道者でありその賜物と情熱を教会に仕えるために、又魂を勝ち取るために使うべきであると信じています。その結果はどうでしょう？ 急激に飛躍的な成長をとげ、愛という絆で結ばれた霊的な家族の教会となったのです。

## スポーツアリーナの接収

今年の四月私はテキサスにあるレイクウッドチャーチを訪れることができました。この教会は礼拝出席四万五千人の今アメリカで一番大きな教会とされています。私はその設備の大きさに圧倒されました。彼等はコンパクト・センターというプロ・バスケットボールチームであるヒューストン・ロケッツの元の競技場を使っています。一回の礼拝に一万六千人の人々を収容でき、それは全米で一番大きな礼拝施設です。彼らの成長の秘訣はなんでしょうか？ たくさんありますが、私の意見として、一つの確かな秘訣は、主任牧師のジョエル・オスティーン師の積極的な信仰建て上げの説教にあると思います。毎週人々は弱々しくうちひしがれ、ストレスに打ちのめされて教会の門をくぐりますが、彼等が教会を出て行くときまでには、引

き上げられ、啓発され、神様が彼等の生活の中に必ず働いて下さるという信仰に満たされるようになるのです。彼の希望のメッセージが何万人もの人々を惹きつけているのです。

競技場を接収したもう一つの教会は南米コロンビアのボゴタにあるインターナショナル・カリスマティック・ミッショナリーです。主任牧師のシーザー・カステラノス師はリーダーを育て、彼等を魂の刈り取りに送り出し、その救われた人々に弟子化訓練を行う事に情熱を注いでいます。彼のG12モデルと呼ばれるシステムはクリスチャン一人一人にイエス様に従い十二人の人々を弟子訓練するようチャレンジを与えます。そして訓練された人々がまた次の人々を同じように導いていくのです。彼等がこのヴィジョンを実践したとき、教会は爆発的に成長し、今日では約五十万人の教会となったのです。彼等の古い施設が小さくなってしまったので今日ではスポーツ競技場を接収し、礼拝場として使っています。主任牧師夫人のクラウディア師はコロンビア国会議員であり彼等の教会員の中の四〇名の信徒達も政府の要職に選出されています。この教会は国を上層部から下層部まで、その数と信仰によって造り替えているのです。

## 聖書の預言

しかし世界中で起こっているこのすばらしい事柄に驚いている場合で

はありませぬ。なぜかというところ、聖書は終わりの日にそのようなことが起こると預言しているからです。ヨエル書第二章二十三節では神様は終わりの日にはその民に「前の雨と後の雨を降らせられる」とあります。そして二十八節ではこの雨は神様が全世界に注ぐ聖霊の象徴だと語られています。この預言は今日のキリスト教の最大の運動、つまりペンテコステ、カリスマ、第三の波の運動、を通して成就してきています。最初の雨は使徒行伝第二章にペンテコステの日に始まってからあらゆる国々に拡大した聖霊降臨の出来事です。後の雨は二十世紀の初めに教会に降り注がれ始め、世界中の隅々にまで急速に広がった聖霊の働きです。ヨエルは二十四節でさらに預言しています。後の雨が降るときには「打ち場は穀物で満ち、石がめは新しい酒と油とであふれる」と。これは言い換えるなら、この運動を通して魂の有り余るほどの収穫があり大いなる喜びと油注ぎがなされるということ。世界中約五億人もの人々を巻き込んでいるこの聖霊運動は今や教会で最も強力な、わくわくするような力となっています。

### 後の者は先になるだろう

日本は神様のリバイバルの計画から外されているのではないかと感じている多くの人々がいます。彼等はプロテスタント宣教二五〇年を経て、この国のクリスチャン人口が未だ

一%だということを見て、この国はあまりにも難しい、あまりにも邪悪で、因習に囚われすぎている、だから神様さえもこの国を見捨ててしまわれたのだと絶望し諦めています。しかし聖書は語ります、ハバクク書第二章十四節で、「海が水でおおわれているように、地は主の栄光の知識で満たされるからである」と。地は日本を含んでいます！だからこの御言葉によると、アメリカやコロンビアやその他の神様が働いておられる国と同じように日本も主の栄光の知識で満たされるようになるのです！ハレルヤ！そして第一コリント一章二十七・二十八節では「・・・神は強い者はずかしめるためにこの世の弱い者を選び」と予告しています。日本は現在霊的に弱い者のように見えるかもしれませんが、神様の力を否定する者達はずかしめるために、この国は力強いリバイバルを受けるように選ばれてしょう！そして最後にマルコによる福音書一〇章三十一節では「しかし、多くの先の者はあとになり、あとの者は先になるであろう」とあります。神様が非常にすばらしく日本に働かれて、リバイバルのために最後に事を起こされる国々の内の一つとなり、他のすべての国々がそれを見て「おお！日本は歴史上最も偉大な神様のわざを体験しているぞ！」と言う日が来ると私は信じています！私はこのことを信じこのことのために祈る者になりたいのです！

### 日本民族総福音化運動協議会趣意書

### 醒めよ日本！起こせキリストによる精神革命

大いなる主の御名を崇めます。

現在私達の国、日本は大きな危機の中に置かれています。それは決して経済の危機ではありません。精神の危機であります。その兆候を私達は端的に子供達、若者達の中に見ることが出来ます。暗く沈み、眼の輝きの失せた、子供達、若者達の中に、明日の日本の希望を見つけることはできません。日本は確実に衰退の方向に進んでいます。そしてこのような祖国の危機的状況を救うのは、実にキリストによる精神革命以外にありません。今こそ、私達日本のクリスチャンが、教派、教団の壁を乗り越え、教理、神学の枠を乗り越え、日本の救いのために立ち上がることが求められています。

折しも、「韓国民族総福音化運動」総裁だった故申賢均牧師は、このような日本を救うべく、三十数年前から、日本を度々来訪され、ご奉仕下さっておりましたが、六年前、我々日本の牧師達にも、「日本民族総福音化運動」を起こすことを提唱されました。それに応えて、二〇〇三年六月に「日本民族総福音化運動協議会」を立て上げ、二〇〇五年より韓国サイドから自主独立して、本格的に「日本民族総福音化運動協議会」が発足するに至りました。

この運動は文字通り超教派的運動であり、「イエスは主、我等の救い主」と告白する者ならば、誰でも参加することができるもので、決して神学や信条を問いません。更にこの運動は、これ迄の日本のリバイバルを求める団体と競合するものではなく、むしろ、既に日本において起こされてきた日本のリバイバルを求め、日本の救いを求めてきた諸団体や個人との良き協力関係の中で押し進めて行かなくてはならないと考えております。その意味で、これ迄日本のリバイバルや救いを求めてこられた方々の積極的な協力と参加をも心より願う次第です。

以上の趣旨をご理解の上、是非とも、この運動にご参加下さい。共に、日本の救いのために立ち上がって参りましょう。

副総裁・事務局長 手束 正昭